

「オホーツクの森」で

ボランティア育樹を行う

6月12日(水)に、「オホーツクの森」で一般市民や常呂・端野小学校、関係ボランティア団体等175名が参加して、第10回「オホーツクの森」ボランティア育樹を開催しました。これまでは風倒被害跡地などの箇所の植樹を行ってききましたが、今回は、枝打ち作業を行いました。

当日は昨日の30度を超す真夏日の暑さが残り、時間が経つにつれてどんどん気温が上がる日となり、作業には厳しい1日が予想されました。

開会式では最初に、実行委員会を代表して樹木医の鈴木順策氏より、今回の枝打ち作業の意義を説明し、続いて、地元を代表して端野自治区長の藤澤和宏様より森林整備の大切さのお話をいただきました。

その後、枝打ち作業場所まで移動し、途中で、枝打ち方法について網走中部森林管理署加藤主任森林整備官等より説明がありました。



(開会式)

今回の枝打ち作業地は2289み林小班0.78 haで、昭和61年植栽のアカエゾマツ人工林です。



(クマゲラの食痕説明の様子)



(枝打ち作業)

各参加者は各々、手ノコを持って次々に林内へ入っていきましたが、途中、クマゲラの食痕もあり、子ども達は鳥が大きな穴を開けることのすごさに感動していました。

今回は、常呂小学校・端野小学校の生徒78名が参加してもらい、生徒各3名にボランティア団体等の方々の大人1名が付いて枝打ち作業を指導していただきました。子ども達は最初、細かく手ノコを動かしていましたが、指導者から指示で、大きく動かすことで楽に切れることに驚いている子もいました。



(端野小学校のみなさん)



(常呂小学校のみなさん)

暑い中の作業で、参加者はたくさんの汗をかいて枝打ちを行いました。林内がすっきりしたことに喜びも同時に感じてもらいました。

午後からは、「森の家」近くを森林散策し、新緑のシャワーの中、森林浴も兼ねながら、様々な木や草花の説明を聞いて歩きました。

また、別な方は、近くで春の山菜のおぼれも採取することが出来ました。



(森林散策の様子)

今回初めて枝打ち作業に取り組み、慣れない中ではありましたが、実行委員会のメンバーの方々のご協力により、無事、ケガや熱中症などもなく終了することができました。事務局としてこの場を借りて、御礼申し上げます。

後日、各小学校からは生徒たちは大変感動した様子で、また、来てみたいとのお話でした。そして、学校側としても、今後の自然や林業の話に今回の体験を活用していきたいとのお話もいただきました。

(参考)

ボランティア育樹実行委員会メンバー

常呂漁業協同組合、オホーツクみどりネットワーク、オホーツク森の案内会の会、森林ボランティア「オホーツクの会」、北林会、日本森林林業振興会旭川支部北見支所、北見市、北海道森林管理局北見事務所、網走中部森林管理署、常呂川森林ふれあい推進センター